

## 犬も歩けば

T.G

10月18日の金曜日に、日本キリスト教団目白教会の100周年記念オルガンコンサートに行ってきました。目白教会には全く縁がないのですが、オルガン奏者が恩寵教会のS.M( )くんで、なおかつ無料だったこともあり、仕事を早々に切り上げて出かけました。

目白教会は100年の歴史にふさわしく、立派な会堂とパイプオルガンを持つ教会でした。入場者は150人ほどを想定していたようですが、200人も人が集まり、パイプオルガンの響きに聴き入っていました。

Mくんの演奏はすばらしく、音楽素人の私でも感動するものでした。また、曲と曲の合間にMくんによる飄々とした解説もあり、なんとなくわかったような気になって聞くことができました。

パイプオルガンの音も素晴らしいものでした。きっと外国のものを輸入したんだろうなあ、なんて思っていたのですが、意外にも日本人の方によるものでした。コンサートには、オルガンの製作者も来ていたのですが、名前を聞いておどろきました。私の学校では、現在新校舎の建築中で、新礼拝堂にはパイプオルガンを入れる計画があるのですが、その製作者の方だったのです。コンサートの終わりに挨拶に伺い、一緒に写真も撮ってきました。あの素晴らしいオルガンがうちの学校にも入るのかと思うとわくわくしてきます。

別の出会いもありました。牧師さんとその奥様と話をしていたのですが、牧師さんは関東学院中高の出身だということです。さらに、奥様は捜真中高と関係があることが分かりました。N先生の名前を出しておきました。この世界はせまいものです。

その奥様が話してくれたことがとても印象的でした。パイプオルガン素敵ですね、と話をむけたところ、「そうですね。その教会がどのような礼拝・讃美をしたいのかというビジョンが大切なんですよね。」とおっしゃってくれました。今私たちの教会に問われていることをさらりと言われ、ドキッとしました。目白教会も100周年という節目の時期に、これからを考えているのだなあと思わされました。

私たち横浜中央教会も大切な時期にあります。この時期に、これからどのような教会として歩いていくのか、様々な機会を通して考えていくことが大切です。分かっているつもりですが、日々忙しく、目の前のことをこなすだけで精一杯でもあります。先のことを考える余裕もあまりありません。しかし、ちょっと外に出てみるとおもしろい出会いがありました。行動することで新しい道が開けることもあるものです。祈りをもって議論を進めながら、次の一步をどのように踏み出すか、楽しみです。

## 教会学校と青年伝道について

G.S

最近の教会学校生徒の出席人数は下がり気味です。礼拝に出て分級に出ないで帰ってしまう生徒もいます。「分級がつまらないのでは」ということで教師会で話し合った結果、小学生でも中学生と同様第4週だけお菓子が出て聖書の話から外れますが、子どもたちが分級に親しんでもらう工夫をしています。ミッションスクールに通っている子も多く「この話知っている」など飽きられているのかと思うことも。その反面難しいはなしだとわからない子もいるようです。第4週でコミュニケーションをはかり生徒たちがどのようなことに興味を持ち知りたいのか教会学校教師会で取り組んでいます。その他こども讃美歌だけでなくみ子さんと協力してキャンプで歌ったアップテンポの楽しい曲や今まで歌ったことのない新しい歌など取り入れたりもしています。

青年伝道については横浜中央教会の枠を超えて五十嵐遣さんなど神奈川の教会の有志による集まりを初めてもちました。それは青年の少ない教会が多く青年伝道をしたいという思いから6月に賛美集会というかたちで青年主体の伝道集会が企画されました。バンドによる賛美と西鎌倉教会の大木先生のメッセージ、その後オリーブの会の方が用意して下さったカレーなどを食べながらまじわり、はじめてやってみた感想を話したりしました。これからも続けていけたらいいねという感想もあり、12月7日(土)青葉台教会で賛美集会をすることになりました。

このように教会学校や青年伝道をとおして若い方々が教会に来てほしいと思います。